

# 文学部

## 文学部の教育の理念・目標

文学部は、人間の文化的・社会的営為に関する人類の叡智を継承し、ことばと文学、歴史と文化遺産、和食文化にかかわる専門領域を深く教育・研究するとともに、その成果を広く社会に還元します。さらに現代社会・地域社会が提起する諸課題にこたえるために、知の拠点として、つねに新たな教育・研究領域を開拓することを目指し、次のような人材の育成を目標とします。

1. 人文学のたゆまぬ研究と教育を通じて、幅広い教養を備えるとともに、豊かな人間性と高度な専門性を身に付けた人材を育成します。
2. 幅広い教養と専門知識を融合させ、総合的な視野や多様な価値観を養うことにより、地域文化・地域課題をにない、また国際化社会にも貢献しうる人材を育成します。

## ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

文学部では、次の能力や学識を身に付けたと認められる学生に対し、学士の学位を授与します。

1. 人間の多様な文化や価値観に対する理解や豊かな教養や社会人としての汎用的技能を備えている。
2. 国際的視点からの京都文化の特殊性や普遍性に対する理解力を備えている。
3. 専門分野における知識や研究方法を活用して課題を解決する能力を備えている。
4. 人類の叡智の継承者としての自覚を持ち、市民としての社会的責任や倫理観、実践的能力を備えている。
5. 日本語や外国語を用いて自己の見解を論理的に分かりやすく示す能力を備えている。

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

文学部では、次の方針に基づきカリキュラムを編成します。

1. 教養教育科目（教養基礎科目〔導入科目、健康教育科目、外国語科目〕、キャリア育成科目、教養総合科目）の幅広い履修により、学士課程（4年間）を通じた多様な教養や社会人としての汎用的技能を身につける。
2. 「国際京都学プログラム」の履修を必修化して、国際的な視野から京都に関するさまざまな文化的現象について考察する。
3. 専門教育科目の「概論」「研究」などの講義科目の履修により、1年生から段階的・体系的に専門的知識を修得し、さらに少人数による双方向型の「演習」科目の履修により、自らの課題意識に基づく主体的な学問研究・問題解決への方法を学ぶ。
4. 研究倫理や、市民としての自覚に基づく実践能力を涵養する。
5. 教養や専門教育科目で修得した語学力や表現力、知識、研究方法・態度等に基づき、最終年度には学士課程の集大成として卒業論文を作成する。
6. 履修科目の単位認定にあたっては、科目の性質に応じて筆記試験、レポート試験、平常点評価などを適切に組み合わせて評価し、その方法等は開講に際して明示する。

## アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

文学部では、次のような能力を修得している学生を求め、入学者選抜の方針を定めます。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）は何か】

1. 高等学校等で修得する十分な基礎学力。
2. 日本語および外国語を通じた異文化理解。
3. 知識や経験を総合し、課題の解決へと導く思考力。
4. 日本および世界の文化・歴史に対する正確な知識。
5. 自己の見解を的確に示す表現力や論述力。
6. 学校内外での主体的な取り組みや他者との協働活動。
7. 志望分野に対する問題意識。

【入学者選抜の方針】

文学部は、こうした学生像や「文学部の教育の理念・目標」に適する能力を考査・選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

## 文学部日本・中国文学科

日本・中国文学科は、日本と中国の言語・文学について探究することを目的として、日本語学・日本文学・中国文学について、相互の関連を踏まえながら専門的な教育・研究を行い、各分野について深い知識を持ち、かつ三分野を関連づけて思考することのできる人材を養成します。

この目的を実現するために、日本・中国文学科では以下のように3つの方針を定めています。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

日本・中国文学科では、次の能力や学識を身につけたと認められる学生に対し、学士（文学）の学位を授与します。

1. 日本と中国にわたる豊かな文学的素養や市民としての教養・汎用的技能を備えている。
2. 日本と中国との文化的影響関係を視野に入れた、京都の伝統文化への理解力を備えている。
3. 当面する諸課題に対して、専門的知識を用いて自ら問い、考え、解決する力を身につけている。
4. 研究倫理に則った正しい姿勢で研究活動を行う能力と、市民としての実践能力を有する。
5. 他者とのコミュニケーションを通じて諸課題に対応する能力を鍛え、各自の思考・判断のプロセスや結果を的確な文章によって表現できる能力を有する。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

日本・中国文学科では、日本語学・日本文学・和漢比較文学・中国文学・京都文学の5つの分野を設け、次の方針に基づきカリキュラムを編成します。

1. 4年間の学士課程を通じて、教養基礎科目、キャリア育成科目、教養総合科目の履修により多様な教養や汎用的技能を身につける。
2. 日本語学・日本文学・和漢比較文学・中国文学・京都文学の五つの専門領域について、専門領域にとらわれず学際的に学ぶことにより幅広い知識を身につけ、国際京都学プログラムとあわせて、日本の伝統文化の中心として発展してきた京都の文学・文化についての理解を深める。
3. 1・2年次においては、外国語科目により国際的なコミュニケーション能力を身につけ、教養総合科目により幅広い教養を獲得するとともに、各種「概論」及び「日本語史」・「日本文学史」・「中国文学史研究」により基礎的な知識を身につけ、あわせて各種「基礎演習」により基本的な研究のスキルを学ぶ。これを基礎において、3・4年次においては、高学年次用教養総合科目により、より一層幅広い教養を獲得しつつ、各種「研究」により専門的な最新の知識を学び、各種「演習」において本格的な研究のスキルを身につけてその知識を応用するとともに、他学生との協働やコミュニケーション能力を向上させる。4年間を通じて、1つの専門領域に偏ることなく幅広く学ぶことにより、各人が独自に設定した学問的課題に対し、自ら考え、解決していく能力を培う。
4. 授業での知識や協働、コミュニケーションを通じて研究倫理についての正しい理解や市民としての実践能力を養う。
5. 的確な文章で表現する力を養成し、その最終的な成果である卒業論文の作成においては中間発表会を行い、最終評価は、学科教員全員が出席する口頭試問を経た上で、教員全員の合議によって行う。

別紙 カリキュラムツリー参照

## アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

日本・中国文学科では、日本や中国の言語や文学に対して強い関心を持ち、同時に人間や社会に対して幅広く目を向け、自ら問題を発見し、解決しようとする意力を備え、また文献の読解に取り組む粘り強さと、多角的な視点からものごとを見る柔軟さを持った学生を求めます。そのために必要な能力は以下の通りです。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）は何か】

1. 高等学校での基礎的諸教科、とりわけ国語、外国語、地理歴史、公民についての十分な学力。
2. 異文化理解に資する外国語・日本語の運用能力。
3. 日本や中国の文化を言語や文字などを通して考察できる能力。
4. 世界、特に日本・中国の文化・歴史に対する正確な知識。
5. 自らの問題意識を論理的・客観的に文章化して表現する能力。
6. 主体性を持って他者と協働する能力。
7. 日本語学・日本文学・中国文学に対する問題意識。

【入学者選抜の方針】

日本・中国文学科は、こうした能力を持つ学生を考査・選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

○ 一般選抜（前期日程）

上記1～4についての基本的な能力は大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）により、また1～4の応用的な能力および5については記述式問題を重視した3教科（国語・外国語・歴史）の個別学力検査によるバランスのとれた学力を考査し、全体に国語の配点を高め、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせる。

○ 一般選抜（後期日程）

上記1～4についての基本的な能力は大学入試センター試験（国語、地理歴史・公民、外国語）により、また1～4の応用的な能力および5については記述式問題を重視した個別学力検査において国語により秀でた学力を考査し、全体に国語の配点を高め、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせる。

○ 推薦入試

上記1～4についての基本的な能力は推薦条件・調査書により確認し、また1～4の応用的な能力および5については記述式問題により優れた学力を評価し、6・7については調査書・推薦書により確認し、総合的に入学者を選抜する。

○ 編入学試験

上記1～4についての基本的な能力は調査書または成績証明書により、また1～4の専門的な能力および5については筆記試験、6・7については志望理由書及び面接により確認し、総合的に入学者を選抜する。

文学部日本・中国文学科のカリキュラムツリー

	専 門 教 育 科 目						獲得する技能	学部共通 プログラム	教養教育科目	
	日本語学	日本文学	京都文学	和漢比較文学	中国文学					
1 年 次	日本語学概論Ⅰ・Ⅱ	日本文学概論Ⅰ・Ⅱ	京都文化学概論Ⅰ・Ⅱ	和漢比較文学概論Ⅰ・Ⅱ	中国文学史研究Ⅰ～Ⅳ	基本的な専門知識	国際	京都学	初年次教育 外国語 スポーツ実習	キャリア
		日本文学基礎演習Ⅰ		和漢比較文学基礎演習Ⅰ	漢文学基礎演習Ⅰ・Ⅱ	基本的な研究スキル				
2 年 次	日本語史研究Ⅰ・Ⅱ	日本文学史研究Ⅰ・Ⅱ	京都文化学概論Ⅰ・Ⅱ		中国文学史研究Ⅰ～Ⅳ	幅広い専門知識	京都学	プログラム	教養総合科目	ア
	日本語学基礎演習Ⅰ	日本文学基礎演習Ⅱ	京都文化学基礎演習Ⅰ・Ⅱ	和漢比較文学基礎演習Ⅱ	漢文学基礎演習Ⅰ・Ⅱ 中国文学基礎演習Ⅰ	専門的研究スキルへの予備的能力				
3 年 次	日本語学研究Ⅰ～Ⅳ	日本文学研究Ⅰ～Ⅷ	京都文学研究Ⅰ～Ⅳ	和漢比較文学研究Ⅰ～Ⅳ	中国文学研究Ⅰ～Ⅳ 漢文学研究Ⅰ～Ⅳ	高度な専門知識・探究分析の方法	幅広い専門知識	プログラム	幅広い教養・汎用的技能・コミュニケーション能力	育成科目
	日本語学基礎演習Ⅱ		京都文化学基礎演習Ⅲ		中国文学基礎演習Ⅱ 中国語会話A・B	予備的能力を活かした専門的スキル・コミュニケーション能力				
	日本語学演習Ⅰ～Ⅳ	日本文学演習Ⅰ～Ⅳ	京都文学演習Ⅰ～Ⅳ	和漢比較文学演習Ⅰ・Ⅱ	中国文学演習Ⅰ・Ⅱ	専門的スキル・コミュニケーション能力・分析表現能力				
4 年 次	日本語学研究Ⅰ～Ⅳ	日本文学研究Ⅰ～Ⅷ	京都文学研究Ⅰ～Ⅳ	和漢比較文学研究Ⅰ～Ⅳ	中国文学研究Ⅰ～Ⅳ 漢文学研究Ⅰ～Ⅳ	高度な専門知識・探究分析の方法	幅広い専門知識	プログラム	幅広い教養・汎用的技能・コミュニケーション能力	育成科目
	日本語学演習Ⅰ～Ⅳ	日本文学演習Ⅰ～Ⅳ	京都文学演習Ⅰ～Ⅳ	和漢比較文学演習Ⅰ・Ⅱ	中国文学演習Ⅰ～Ⅳ	専門的スキル・コミュニケーション能力・分析表現能力				
↓ 専攻科目演習（卒業論文）      統合的な学習経験と創造的思考力										

## 文学部欧米言語文化学科

欧米言語文化学科は、多文化共生の時代に必要な異文化理解を深めることを目的として、欧米言語文化・英語学英語教育学・国際文化交流・日英翻訳文化の教育研究を行い、高度な外国語運用能力・柔軟な思考力・問題発見能力・自己表現力を備えた、広い国際的視野を持った人材を養成します。

この目的を実現するために、欧米言語文化学科では以下のように3つの方針を定めています。

### ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

欧米言語文化学科では、次の能力や学識を身につけたと認められる学生に対し、学士(文学)の学位を授与します。

1. 多くの事象にわたる幅広い人文学的教養とともに、それらを超えた学問全般にわたる広い教養を身につけている。
2. 京都の文化と伝統や異文化を理解する能力をそなえている。
3. 国際活動の基盤として、二つ以上の外国語の運用能力を有し、交流する能力を身につけている。
4. 欧米の英語圏・ドイツ語圏の言語・歴史・文化・社会について、それらの特徴や仕組みについて幅広い知識を系統立てて身につけている。
5. データや資料を収集・分析・読解する能力、学問的議論をおこなうコミュニケーション能力、独創的な着眼点を持った探求能力、市民としての倫理観・責任感を持った実践的能力を身につけている。
6. 以上の能力をもとに言語文化の営みを理解し、文章で表現する能力を身につけている。

### カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

欧米言語文化学科では、欧米言語文化・英語学英語教育学・日英翻訳文化・国際文化交流の4つの分野を設け、次の方針でカリキュラムを編成します。

1. 4年間の学士課程を通して、教養教育科目等(教養基礎科目・キャリア育成科目・教養総合科目)を履修することにより、欧米言語文化にとどまらない多様な学問領域にわたる教養と汎用的技能を身につける。
2. 国際京都学プログラムによって、京都の文化・歴史について幅広い教養を身につける。
3. 教養基礎科目の外国語科目および専門教育科目の選択科目における外国語関連の科目、「世界遺産都市研修」によって異文化理解能力を身につけ、外国語を用いて自己の見解を論理的にわかりやすく表現する力を身につける。
4. 4分野にわたる1~3年次の「概論」「文化と社会」「文化史」等の選択必修科目(講義)の履修により、欧米言語文化の幅広い基本的知識を修得する。さらに3、4年次の「研究」等の選択科目の履修により、より高度な知識ならびに研究の方法を身につける。
5. 3年次より少人数・双方向性の演習科目を履修することにより、外国語のデータや資料を収集・分析・読解する能力を養い、報告・討論を通して研究力や市民としての倫理観を養い、学問的な議論をおこなうコミュニケーション力を身につける。選択必修科目(フィールド演習科目)の履修により、独創的な着眼点を養う。
6. 最終年次には専攻科目演習の課題として卒業論文を求める。独創的な着眼点にもとづく課題を設定し、市民としての社会的責任や倫理観をわきまえ、教養と専門的学識を総合する文章表現力を養う。卒業論文作成にあたっては、教員による個人指導をおこない、中間発表等のプレゼンテーションを行う。卒業論文は、複数教員による口頭試問をへて評価がなされる。

別紙 カリキュラムツリー参照

## アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

欧米言語文化学科では、広い視野と関心を持って、独自の視点から問題を探求し、客観的かつ多面的考察・分析をおこない、その成果を論理的な言葉で表現できる人材を育成します。入学者選抜にあたっては、こうした欧米言語文化の研究方法に対する能力・適性を考查します。したがって本学科では、以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）は何か】

1. 教養の基礎となる高等学校等で履修する基本的な知識と理解力。
2. 日本語と外国語の優れた言語能力。
3. 言葉の力や人類が培ってきた様々な思想を理解するための共感能力、柔軟な思考力と問題把握能力。
4. 過去から現代に至る欧米と日本の文化・社会に強い関心を持ち、言葉の仕組み、機能を理解し、思考する能力。
5. 自ら見出した問題を論理的に考え、自分の言葉で表現する能力。
6. 学校内外での主体的な取り組みや他者との協働活動への意欲。
7. 欧米言語文化に対する問題意識。

【入学者選抜の方針】

欧米言語文化学科は、こうした能力を持つ学生を考查・選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

○ 一般選抜（前期日程）

上記1から4の基本的な知識及び理解を考查する大学入試センター試験(国語、外国語、地理歴史・公民)と1から4の応用力と5について外国語ならびに国語の文章読解力や文章作成力、論理的な思考力、歴史に関する適切な理解を通じて適宜考查する個別学力検査(国語・外国語・歴史)を組み合わせる。

○ 一般選抜（後期日程）

上記1から4の基本的な知識及び理解を考查する大学入試センター試験(国語、外国語、地理歴史・公民)と1から4の応用力と5について欧米言語文化学科の求める高度な外国語理解力や外国語文章作成力、論理的な思考力を通じて適宜考查する個別学力検査(外国語)を組み合わせ、後者の配点をその他の科目よりも高くして入学者を選抜する。

○ 推薦入試

上記1から4の基本的な能力は推薦条件・調査書により確認し、1から4の応用力と5については文章読解力や文章作成力、論理的な思考力を適宜考查し、6学校内外での主体的な取り組みや他者との協働活動、7欧米言語文化に対する問題意識を調査書・推薦書により確認し、総合的に入学者を選抜する。

○ 編入学試験

上記1から4についての基本的な能力は調査書または成績証明書により、また1から4の応用力ならびに5については筆記試験により、6学校内外での主体的な取り組みや他者との協働活動、7欧米言語文化に対する問題意識については志望理由書により確認し、総合的に入学者を選抜する。

欧米言語文化学科のカリキュラムツリー

教養教育科目及び、京都学や多様な学問領域				専門教育科目			
多様な学問領域・汎用的技能に関わる科目	キャリア育成科目	京都関係科目 (国際京都学プログラム)	外国語運用能力	欧米言語文化に関する幅広い知識	分析能力・コミュニケーション能力・探求能力	教養と専門的学識を総合した力・文章表現力	
4回生	卒業準備科目（飛翔なからぎ講座I, II）	教職関連科目（専門）	国際京都学講義、国際京都学文献演習	ドイツ語表現法II Ia, b、ドイツ語表現実習II	欧米言語文化に関する幅広い知識 欧米言語文化研究III（アメリカ）、欧米言語文化研究VI, VIII, X（ドイツ）、欧米言語文化研究XIV（フランス）、英語学研究II, IV、日本欧米言語文化比較研究II、欧米の文化と社会IVb（フランス）	欧米言語文化演習Ic, d（イギリス）、欧米言語文化演習IIc, d（イギリス）、欧米言語文化演習IIIc, d（イギリス）、欧米言語文化演習IVc, d（アメリカ）、欧米言語文化演習Vc, d（アメリカ）、欧米言語文化演習VIc, d（ドイツ）欧米言語文化演習VIIc, d（ドイツ）、英語学演習c, d、英語教育学演習c, d、日本欧米翻訳文化演習c, d	専攻科目演習（卒業論文）
3回生	三大学教養共同化科目等	キャリアデザイン演習 教職関連科目（専門）	国際京都学講義、国際京都学文献演習	アカデミック・ライティングIII, IV、メディア・イングリッシュa, b、英語でディスカッションa, b、英語で京都I, II、ドイツ語表現法IIa, b、ドイツ語表現実習I	英語史、欧米言語文化研究I（イギリス）、欧米言語文化研究V, VII, IX（ドイツ）、欧米言語文化研究XIII（フランス）、英語学研究I, III、日本欧米言語文化比較研究I、欧米の文化と社会IVa（フランス）	欧米言語文化演習Ia, b（イギリス）、欧米言語文化演習IIa, b（イギリス）、欧米言語文化演習IIIa, b（イギリス）、欧米言語文化演習IVa, b（アメリカ）、欧米言語文化演習Va, b（アメリカ）、欧米言語文化演習VIa, b（ドイツ）欧米言語文化演習VIIa, b（ドイツ）、英語学演習a, b、英語教育学演習a, b、日本欧米翻訳文化演習a, b	
2回生	外国語科目、人間と文化系科目、現代と社会系科目、自然と生命系科目、地域に学ぶ科目、三大学教養共同化科目	ケースメソッド・キャリア演習 教職関連科目（専門）	京都文化学フィールド演習、国際京都学フィールド演習、文化遺産フィールド政策論、国際京都学講義、国際京都学文献演習	教養基礎科目外国語英語コミュニケーション演習、英語プレゼンテーション演習、アカデミックライティングI, II、ドイツ語インテンシーフII, III、ドイツ語表現法Ia, b	英語学概論、英語教育学概論、欧米の文化と社会iii（ドイツ）、欧米言語文化史Ia, Ib（イギリス）、欧米言語文化史IIa, b（アメリカ）、日本欧米翻訳文化論、世界遺産都市研修II（ドイツ）		
1回生	導入科目（新入生ゼミナール、情報処理基礎演習）、健康教育科目（スポーツ実習、食と健康の科学他）、外国語科目、人間と文化系科目、現代と社会系科目、自然と生命系科目、地域に学ぶ科目、三大学教養共同化科目	キャリア入門講座 教職関連科目（専門）	国際京都学入門、国際京都学講義、国際京都学文献演習	教養基礎科目外国語、英語コミュニケーション入門、英語音声学演習、ドイツ語インテンシーフI	欧米言語学概論、欧米の文化と社会I（イギリス）、欧米の文化と社会II（アメリカ）、欧米から見た京都、世界遺産都市研修I（オーストラリア）		



## 文学部歴史学科

歴史学科は、人間の文化的・社会的営為について歴史と文化遺産に関わる専門的領域を考究することを目的として、日本を中心としてひろく世界についてその社会と文化、思想の歴史的展開に関する教育研究を行い、人類の過去と現在、未来に対する洞察力、分析力をもつ人材、さらに歴史的遺産を理解しその継承に資する人材を養成します。

この目的を実現するために、歴史学科では以下のように3つの方針を定めています。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

歴史学科では、次の能力や学識を身に付けたと認められる学生に対し、学士（歴史学）の学位を授与します。

1. 人間の多様な文化や価値観に対する理解と豊かな教養、汎用的技能を備えている。
2. 国際的な視野から京都をはじめとする地域社会の歴史・文化に対する正しい知識と深い理解を備えている。
3. 歴史学に関する深く幅広い知見を有するとともに、古文書などの史資料や英語・中国語などの外国文献を的確に運用する能力、多様な情報を処理する能力、さまざまな文化遺産を調査・保存・活用する能力を備えている。
4. 社会的・職業的自立を図り、仕事と生活との調和のとれた働き方・生き方を創造するために必要な能力を備えている。
5. 実証的・論理的に論を組み立て、自己の見解を的確に表現する能力を備えている。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

歴史学科では、日本史・日本文化史、東洋史・東洋文化史、西洋史・西洋文化史、文化遺産学の4コースを設け、次の方針に基づきカリキュラムを編成します。

1. 教養教育科目の幅広い履修により、学士課程（4年間）を通じて多様な教養と汎用的技能を身につける。
2. 「国際京都学プログラム」の履修を通して、国際的な視野から京都に関するさまざまな文化的現象について考察する。
3. コース共通の必修科目として「基礎演習」（2年次）を履修し、広域的・地域横断的に歴史学という共通の学問方法を修得する。さらに各コースでは、（1）「史料演習」（1～3年次）や「実習」（2～4年次）の履修により、史資料読解のスキル、文化遺産の調査・保存・活用に必要な能力を養う。（2）「概論」（1～2年次）の履修により、当該分野の学問体系の基礎を修得する。（3）「研究」（3～4年次）の履修により、当該分野の最先端の研究成果を学び、先行研究を批判的に検討する能力を養う。（4）「演習」（3～4年次）の履修により、研究課題を自ら発見し、それを学問的に追究し、論理的に表現する能力を養う。なお少人数による双方向型の授業である「史料演習」「実習」「演習」の履修により、主体的に課題を発見し解決する能力を養う。
4. キャリア育成科目の履修を必修とし、自分の働き方・生き方に関する将来像を具体的に構築する能力を養う。
5. 教養科目及び専門科目を通じて学んできたことがらを集大成し、主体的に問題解決に取り組んだ成果として、卒業論文を作成する。卒業論文は中間発表会における合評を経て提出し、日本史、世界史（東洋史・西洋史）、文化遺産学の分野ごとに卒論試問を行い、学科教員全員の合議によって最終評価を行う。

## アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

歴史学科では歴史学に対する深く幅広い知見を備え、資史料を運用する能力、文化遺産を調査・保存・活用する能力を備えた人材を育成します。入学試験にあたっては、こうした歴史学の研究方法に対する能力・適性を考査し、入学者を選抜します。本学科では、そのために以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）は何か】

1. 高等学校で修得する諸教科、とりわけ国語、外国語、地理歴史についての十分な基礎学力。
2. 自国の文化及び異文化に対する十分な理解。
3. 歴史研究の基礎となる資料や文献の読解に必要な思考力・解釈力・想像力。
4. 日本および世界の歴史に対する正確な知識。
5. 自己の見解を的確に示す表現力や論述力。
6. 学校内外での主体的な取り組みや、他者と協働する協調性。
7. 歴史学に対する深い関心、文化遺産の調査・保存・活用に対する強い意欲。

### 【入学者選抜の方針】

歴史学科では、こうした能力を考査するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

#### ○ 一般選抜（前期日程）

上記1～4についての基本的な能力は、大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）によって評価する。また1～4の応用的な能力、及び5については、記述式問題を重視した3教科の個別学力試験（国語、外国語、歴史）により、評価する。

#### ○ 一般選抜（後期日程）

上記1～4についての基本的な能力は、大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）により、評価する。また1～4の応用的な能力、及び5については、記述式問題を重視した個別学力試験（歴史）によって評価する。特に歴史1教科の個別学力試験を課すことにより、④に秀でた学生を選抜する。

#### ○ 推薦入試

上記1～4についての基本的な能力は、推薦条件・調査書によって確認し、また1～4の応用的な能力、及び5については、小論文などによって評価し、6・7については、調査書・推薦書によって確認し、総合的に入学者を選抜する。

#### ○ 編入学試験

上記1～4についての基本的な能力は、調査書または成績証明書によって評価する。また1～4の専門的な能力、及び5については筆記試験、6・7については志望理由書及び面接により確認し、総合的に入学者を選抜する。

歴史学科のカリキュラムツリー

身につける資質能力	豊かな教養と汎用的技能	キャリアデザイン力	京都の歴史と文化に対する知識と理解	自己の見解を的確に表現する能力	歴史学に関する深い識見と確かな技能		
科目区分	教養教育 (教養基礎・教養総合)	教養教育 (キャリア育成)	専 門 教 育				
			コース共通 国際京都学 ・ 卒論	日本史・日本文化史コース			
				講義科目	史料演習科目	演習科目	
4回生	教養総合科目	教科専門等科目 教職基礎等科目 教育実習 学芸員資格科目 博物館実習	専攻科目演習（卒論）	日本史学研究ⅢⅣ 日本文化史研究ⅢⅣ		日本史演習ⅢⅣ 日本文化史演習ⅢⅣ	
3回生	教養総合科目	キャリアデザイン演習 教科専門等科目 教職基礎等科目 介護等体験  学芸員資格科目		日本史学研究ⅠⅡ 日本文化史研究ⅠⅡ 日本美術史ⅠⅡ		日本史演習ⅠⅡ 日本文化史演習ⅠⅡ	
2回生	人権論 日本国憲法 生涯学習論 教養総合科目	英語 第2外国語	ケースメソッド・キャリア演習 教科専門等科目 教職基礎等科目  学芸員資格科目	国際京都学フィールド演習 基礎演習	日本文化史概論 東洋文化史概論 西洋文化史概論	東洋史史料演習Ⅲ 日本古文書史料演習ⅢⅣ	
1回生	新入生ゼミナール 情報処理基礎演習 スポーツ実習 京都の歴史 現代社会とジェンダー 教養総合科目	英語 第2外国語	キャリア入門講座 教科専門等科目 教職基礎等科目  学芸員資格科目	国際京都学入門	日本史概論 東洋史概論 西洋史概論 文化遺産学概論Ⅰ	日本古文書史料演習Ⅰ 西洋史史料演習Ⅱ	

## 文学部和食文化学科

和食文化学科は、日本人の伝統的な食文化に内在する普遍的価値を探究することを目的として、生活文化としての食を歴史的・文学的に読み解くとともに、産業としての食の可能性に技術的・経営的な側面から迫る教育研究を行い、和食文化の神髄と魅力を世界に向かって発信し、我が国における和食文化の保護・継承・発展に寄与できる人材を養成します。

この目的を実現するために、和食文化学科では以下のように3つの方針を定めています。

### ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

和食文化学科では、次の能力や学識を身に付けたと認められる学生に対し、学士（和食文化学）の学位を授与します。

1. 多様な和食文化に対する理解、伝統文化の豊かな教養と食に関わる基礎的スキルを備えている。
2. 国際的な視野から和食文化の特殊性や普遍性に対する理解力を備えている。
3. 和食文化の知識・技能・研究方法を活用して課題を発見し、解決する能力を備えている。
4. 日本文化と和食文化の継承者としての自覚を持ち、市民としての社会的責任や倫理観、実践能力を備えている。
5. 日本語や外国語を用いて自己の見解を論理的に分りやすく示す能力を備えている。

### カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

和食文化学科では、和食史学・和食文芸・食人類学・食経営学・和食科学の5つの分野を設け、次の方針に基づきカリキュラムを編成します。

1. 教養教育課程（教養教育科目[導入科目、健康教育科目、外国語科目]、キャリア育成科目、教養総合科目）の幅広い履修により、学士課程（4年間）を通じた多様な教養（知識と技能）を身につけ、和食文化を探究する学力を備える。
2. 「国際京都学プログラム」の履修を通じ、国際的な視野から京都に関する様々な文化的現象について考察するとともに、和食文化を探究する教養を身につける。
3. 和食文化学科の専門教育科目を幅広く履修し、演習・実習の機会に多様な食の現場（農林水産業、食品加工・製造、流通、調理・接客等を含む）に臨み、学問的な議論を行うだけでなく、食を巡る現代社会の多様な問題を自ら発見、理解するとともに、自らその解決の道筋を探るための必要な知識と技術を身につける。
4. 特に、「フィールドワーク入門」「和食文化演習Ⅰ～Ⅳ」により、講義による知識の取得にとどまらず、様々な食の現場でのフィールドワークを通じて、社会的な協働を果すために必要な双方向の発信力を身につける。
5. 研究倫理や、市民としての自覚に基づく実践能力を涵養する。
6. 教養科目及び専門科目を通じて学んできたことを集大成し、最終的な成果である卒業論文を作成する。卒業論文は中間発表会での合評を経て提出し、最終評価は、学科教員全員が出席する口頭試問を経た上で、教員全員の合意合議によって行う。

別紙 カリキュラムツリー参照

## アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

和食文化学科では、和食文化全般に対して強い関心を持ち、同時に人間や社会全般に対して幅広く目を向け、自ら問題を発見し、解決しようという意欲を備え、また文献の読解に取り組む粘り強さと、多角的な視点からものごとを見る柔軟さを持った学生を求めます。そのために必要な能力は以下のとおりです。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）は何か】

1. 高等学校の基礎的諸教科の十分な修得
2. 異文化理解に資する日本語・外国語の運用能力
3. 和食文化研究の基礎となる文献の読解や実験に必要な思考力
4. 自国の自然・歴史・文化及び異文化に対する幅広い知識
5. 自らの問題意識を論理的・客観的に表現する能力
6. 主体性をもって異なる立場・専門・文化を有する他者と協働する能力
7. 食に関わる自然現象への関心と社会が抱える諸課題の解決に関する関心
8. 食文化への好奇心と学びに対する意欲

### 【入学者選抜の方針】

和食文化学科では、こうした能力を持つ学生を考査・選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

#### ○一般選抜（前期日程）

上記1～4についての基本的能力は大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民、数学、理科）により、また1～5の応用的な能力については記述問題を重視した3教科（国語、歴史、外国語）の個別学力検査により評価し、両者を組み合わせて入学者を選抜する。

#### ○一般選抜（後期日程）

上記1～4についての基本的能力は大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民、数学、理科）により、また1～5の応用的な能力および7については個別学力試験として小論文を課し、学科の学びに関連する多様な資料を理解した上で自分の考えを展開する論理的な思考力と食を取り巻く社会課題への関心と理解の深さを評価して、両者を組み合わせて入学者を選抜する。

なお、後期日程においては、特に上記3の観点を重視し、大学入試センター試験の理科の配点を高く設定する。

#### ○推薦入試

上記1～7の基本的な能力は推薦書・調査書によって確認し、また1～5の応用的能力および7については小論文により、8については志望理由書により評価して、総合的に入学者を選抜する。

文学部和食文化学科のカリキュラム・ツリー

	専門教育科目						教養教育科目	
	多様な食の現場に臨み、学問的な議論を行うだけでなく、食を巡る現代社会の多様な問題を自ら発見、理解し、自らその解決の道筋を探るための必要な知識と技術を身につける。(現場力、解決力、技術力)	講義による知識の取得にとどまらず、様々な食の現場でのフィールドワークを通じて、社会的な協働を果すために必要な双方向の発信力を身につける。(社会的協働)	研究倫理や、市民としての自覚に基づく実践能力を涵養する(倫理と実践能力)	国際的な視野から京都に関する様々な文化的現象について考察し、和食文化を探究する教養を身につける。(国際的関心と京都文化への理解、深い教養)	和食文化研究の基礎となる文献の読解や実験に必要な思考力を身につける。(文献、実験)	学部共通プログラム		
4 回生					専攻科目演習(卒業研究・論文)	国際京都学プログラム	初年次教育	キャリア
3 回生	和食文化インターンシップ、和食の環境とデザイン	栽培学と植物栄養学、歴史の中の「病」と「食」、簿記入門	和食文化学演習Ⅳ(米餅酒)、専攻科目演習、食・農を市民の手に取り戻す政策論	和食と言葉、マーケティング	和食文化文献研究、和食文芸資料講読、資源管理学	幅広い専門知識	外国語	スポーツ実習
2 回生	米食文化論、地域経営論、和食の化学、おいしさの科学、観光学	和食サービス論、疫病から見た和食の評価(食と健康)、和食文化実習Ⅱ(実学和食)	和食文化学演習Ⅱ(京野菜)、和食文化学演習Ⅲ(茶懐石)、和食文化実習Ⅰ(調理学実習)	東アジアの文化交流、食人類学、比較食文化学、ホスピタリティ・マネジメント、食品ビジネス論	和食の美意識と文芸、生活文化資料講読、和食文芸入門、和食民俗学		教養総合科目	育成科目
1 回生	食文化原論、京料理の科学、和食材料学	フィールドワーク入門、和食文化学演習Ⅰ(精進)		食環境を巡る国際社会と日本、食と文芸	和食の歴史、仮名文字入門		幅広い教養・汎用的技能・コミュニケーション能力	